

2016年度 学習支援推進委員会 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	学習支援推進委員会は、2005年7月に「明治大学学習支援推進委員会設置要綱」を制定し、本大学及び各学部の教育理念実現と教育目標の達成のため設置された。これは、近年の入学選抜の多様化及び学生の多国籍化により、これまでの統一的・全体的な学習指導では十分対応できていない状況を改善し、学生個々の多様なニーズに対して、柔軟かつきめ細かい学習指導が必要となっているためである。 和泉学習支援室では、学生への学習支援と授業支援を行うためのTA及び助手が配置されている。特に前者では、学生の多様なニーズに対応するため、語学、専門科目、教養科目など幅広い支援ができる体制をとっている。生田キャンパスについては、理工学部・農学部それぞれに学習支援室が開設され、各専攻のTAが主体となって学部学生への学習支援活動を実施している。2013年度からは国際日本学部、総合数理学部等が設置されている中野キャンパスに「中野学習支援コーナー」を開室し、TAを配置して学習支援を行っている。駿河台キャンパスの学習支援室は利用率の低下と教室事情のため、2009年度に閉室された。					
(2) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	自己点検・評価報告書を作成し、学習支援推進委員会（2016年6月14日：審議事項3）にて検証を行い、年度計画書に反映している。2016年度は、学習支援室での支援、身体機能に障がいのある学生への支援体制の整備等の課題を2017年度計画書に反映した。					
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	理念や目的の適切性について、定期的に検証を行うシステムが十分とは言えないが、次年度の年度計画を策定する際に、委員会において適宜議論し、検証している。					

2016年度 学習支援推進委員会 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	学習支援推進委員会は本大学の各学部における教育理念の実現と教育目標の達成のため、本大学の学生に対し、個々に合わせた多様な学習支援を実施し、これを全学的に推進することを目的として、教務部委員会の下に、設置されている。 理念・目的との適合性としては、多種多様な入学形態で入学してきている学生のレベルアップに貢献し、グローバル化するこれからの社会でしっかりと活躍できる学生の育成を目指して学習支援に取り組んでいく組織になっている。 また、スポーツ特別入試入学者対象に語学科目を開講するなど、多様化する入試体制に対応するという社会の要請に配慮している。				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	自己点検・評価報告書を作成し、学習支援推進委員会（2016年6月14日：審議事項3）にて検証を行い、年度計画書に反映している。 2016年度は、学習支援室での支援、身体機能に障がいのある学生への支援体制の整備等の課題を2017年度計画書に反映した。				

2016年度 学習支援推進委員会 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述
(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか					
<p>a ●修学支援、生活支援、進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】</p>	<p>多種多様な入学形態で入学してきている学生のさまざまなニーズに応え、全学的な学習支援を推進することを目的として、教務部委員会の下に「学習支援推進委員会」が設置されている。 2016年度には、次の4点を中心とした学習支援を行った。 ①学習支援室でのTAによる基礎的科目及び基本科目の学習指導、②スポーツ特別入試入学者対象の語学の運営、③スポーツ特別入試入学者対象の授業出席確認カードの管理、④障がい学生に対する学習支援活動のサポートである。 それぞれの支援については、各学部の教務主任や関係部署の教職員で構成される学習支援推進委員会にて審議や報告をし、情報を共有している。 更に各学部においても独自に修学支援を行っており、その内容は、入学前教育や補習・補充教育の実施、ガイダンスの実施、アカデミック・アドバイザーの配置、オフィスアワーの実施、初年次教育科目の開設、成績不良者や単位僅少者への面談・学習計画の作成指導などである。これらの各学部の学習支援実施状況及び課題については、学習支援推進委員会で報告後、明治大学学習支援報告書を作成・公開しており、それぞれの支援について情報共有する手段となっている。</p>				
<p>b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】</p>	<p><補習・補充教育に関する支援体制とその実施> 学習支援室における学習指導では、文系1・2年生のキャンパスである和泉キャンパスに「和泉学習支援室」、生田キャンパスに「理工学部学習支援室」、「農学部学習支援室」、中野キャンパスに「中野学習支援コーナー」を設置し、TAを配置して学習支援を行っている。 また、スポーツ特別入試入学者対象の語学を設置することで、必修である語学の授業において、当該の学生が部活と勉学を両立できるよう支援をしている。また、スポーツ特別入試入学者の授業出席を促すため、「授業出席確認カード」を用意していた。しかし、体育会所属のスポーツ特別入試入学者を対象者とし、その授業への出席を促すために、2006年度に開始された制度であるが、長期に亘って実施率が非常に低く、形骸化している。さらに、全学部で導入している制度ではなく、かつ、その実施を学生・体育会の任意に委ねているため、対象者全てに授業出席を促すという効果を期待できる制度とは言い難い。他方、スポーツ特別入試入学者を含む所属学生に対する修学指導は、現在、各学部がそれぞれ、その責任において行っている。 このような状況を鑑みると、全学的なものとして本制度を維持する必要性はないと考えられるため、2016年12月6日開催の教務部委員会にて廃止の審議依頼を行ない、全ての学部から承認されたため、2017年2月21日開催の教務部委員会にて2016年度をもって「授業出席確認カード」を廃止をすることを承認した。</p>	<p>スポーツ特別入試入学者の授業出席を促すため、「授業出席確認カード」を用意していたが、2016年12月6日開催の教務部委員会にて廃止の審議依頼を行ない、全ての学部から承認されたため、2017年2月21日開催の教務部委員会にて2016年度をもって「授業出席確認カード」を廃止をすることを承認した。</p>			

2016年度 学習支援推進委員会 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明	評価		発展計画		
	<small>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</small>	<small>効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述</small>	<small>改善を要する点・理由 D列の現状から記述</small>	<small>「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目</small>	<small>「改善を要する点」に対する発展計画</small>	
					<small>当年度・次年度対応 F列にあれば記述</small>	<small>中長期的対応 F列にあれば記述</small>
	<p><障がいのある学生に対する修学支援></p> <p>身体に障がいのある学生に対する支援として、学習支援推進委員会の下に2012年5月に教務事務室に「障がい学生学習支援チーム（兼務の職員1名、嘱託職員コーディネーター2名の計3名）」を設置した。</p> <p>学内外の関係機関との連携や意見交換を図りつつ、全学的な支援ノウハウを蓄積して、所属学部と協力し、障がい者に対する学習支援活動のサポートを行っている。</p> <p>2016年度は、聴覚障がい学部生2名にノートテイクを、視覚障がい科目等履修生には、ポイントテイクを配置した。また、肢体不自由学部生に車椅子用机を設置するなど、障がい学生が学業に支障をきたさないよう必要な支援を行った。加えて、全キャンパスにおいて、支援学生養成のための説明会、講座を開催するなど、支援学生の養成や学内周知にも努めた。</p> <p>また2016年4月の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行に伴い、本学における障がい学生支援基本方針の取り組みを行っている。</p>					
(2) 学生への修学支援は適切に行われているか						
<p>a ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 【約400字～800字程度】</p>	<p>聴覚・視覚・肢体不自由等、身体の機能に障がいのある学生に対して、入学試験から入学後の授業学習に関する支援を、学習支援推進委員会の下、教務事務室所管として、「障がい学生支援」組織の構築をめざし、2012年度から「障がい学生学習支援チーム」として学習支援活動のサポートと経験やノウハウを蓄積している。支援体制としては、所属学部を通じて障がい学生を支援する形を基本としながらも、学内外の関係機関との必要な連携や情報を図り、所属学部と学習支援チームとが協働してより効果的な支援を行っている。</p>					

2016年度 学習支援推進委員会 自己点検・評価報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(3) 学生の生活支援は適切に行われているか						
a ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ①心身の健康保持・増進及び安全・衛生への配慮 ②ハラスメント防止のための措置 【約400字～800字程度】	この項目は学習支援推進委員会には馴染まない設問のため回答を控える。					
(4) 学生の進路支援は適切に行われているか						
a ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	この項目は学習支援推進委員会には馴染まない設問のため回答を控える。					

2016年度 学習支援推進委員会 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	2016年度第1回目の委員会（2016年6月14日開催）において、前年度の自己点検・評価報告書を確認している。					
(2) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫	自己点検・評価報告書を作成し、学習支援推進委員会（2016年6月14日：審議事項3）にて検証を行い、年度計画書に反映している。2016年度は、学習支援室での支援、身体機能に障がいのある学生への支援体制の整備等の課題を2017年度計画書に反映した。					
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 <参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	自己点検・評価報告書を作成し、学習支援推進委員会（2016年6月14日：審議事項3）にて検証を行い、年度計画書に反映している。2016年度は、学習支援室での支援、身体機能に障がいのある学生への支援体制の整備等の課題を2017年度計画書に反映した。					